

令和2年度 学校評価書

都城市立西中学校

評価基準		4、A(期待以上…8割以上) 3、B(ほぼ期待通り…5～8割) 2、C(期待を下回る…2～5割) 1、D(改善を要する…2割未満)				都城市立西中学校			
本年度の重点目標		評 価 項 目	生徒	保護者	教師	学校の自己評価コメント	自己評定 (総合)	学校運営協 議会評価	学校運営協議会コメント
豊かな心の育成	命を大切にし、感謝の気持ちを育てる。	① 生徒の悩みや相談に適切に対応している。	3.2	2.8	2.8	○ 教育相談は実施できたが、時間が十分ではなかった。日常的に教育相談をしていく必要がある。 ○ 生徒の多様なニーズに答える意味でも、学級担任だけが相談相手になるのではなく、全職員が相談相手となったり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをもっと活用したりして、相談を工夫する必要がある。 ○ 素直に「ありがとうございます。」を言える生徒は多いと思われる。今後も多くの生徒が言えるように支援していきたい。 ○ 参観日や、人権教育週間で、共通のテーマで全校一斉に道徳の授業を実践できた。また、年職員がローテーションで授業するなど工夫することができた。 ○ 清掃については無言清掃が定着し、生徒は時間いっぱい取り組んでいた。	B	B	○ 感染拡大防止のための臨時休業で、学習面や部活動において、生徒の心のケア等、昨年までとは異なる対応を余儀なくされる中、他人を思いやる豊かな心の醸成に工夫されていると思います。 ○ 登校時の巡回で、ある女子中学生が「おはようございます。」に続き、「行ってきます。」のあいさつをしてくれました。これが小学生にも伝わり、大変気持ちの良い朝を迎えることができています。 ○ 各月の家庭の日には清掃活動を位置づけているが、部活動生も約30%の参加です。参加率を高める手立てが欲しいところです。 ○ 「ありがとう」と言える生徒が多いのは、大変素晴らしいことだと思います。
		② 生徒は、ありがとうの気持ちを進んで示している。	3.6	2.9	2.6				
		③ 生徒は、楽しそうに学校に通っている。	3.4	3.1	2.8				
	清掃や奉仕活動等を家庭で体験させる。	④ 生徒は、家庭で清掃や手伝いをし、きれいな環境で生活できている。	3.4	2.8	2.3				
		⑤ 生徒は、親子奉仕作業や清掃活動に参加している。	3.0	3.0	2.6				
基礎的・基本的な生活習慣の定着	規範意識を身に付けさせる。	⑥ 生徒に校則や社会のルールを守る指導ができています。	3.5	3.1	2.9	○ 宮崎県弁護士会から講師を招いて、規範意識を高めるための集会を開いた。規則を守ることの意義について、新しい視点で指導があり、有益であった。今後の指導に役立てたい。 ○ 生徒のあいさつは概ね良好であるが、大きな声であいさつができるように指導していきたい。 ○ 学級通信やメール配信によって、保護者への連絡が行き届くようになったが、依然として提出期限が守れない生徒も見られるので、今後も継続して指導していきたい。 ○ 情報モラルやスマホ等、情報端末機の取扱いについても指導が必要である。	B	B	○ 登校時は、学校指定の制服・カバンで通学路に広がらず、きちんとした態度で投稿しています。 ○ 一番の基本であるあいさつの実践がまだまだの感想ですが、実社会において、一番最初に評価を受ける部分なので、積極的に取り組んで欲しいと思います。 ○ 保護者や学校と生徒の評価の差が大きいように思えます。両者のギャップを埋めるとともに、ネット上で評価するのならわかりやすく記入できるような手立てが欲しいところです。
	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	⑦ 生徒は、時間を守って行動することができている。	3.4	3.1	2.5				
		⑧ 生徒は、あいさつは「いつでも、どこでも、自分から」を実践できている。	3.4	3.0	2.3				
		⑨ 生徒は、提出物を期限内にきちんと提出できている。	3.3	3.1	2.2				
学習意欲の向上	確かな学力の定着を図る。	⑩ 生徒は、基本的な学習習慣を身に付けている。	3.2	2.9	2.4	○ 漢字検定に208名、英語検定に154名、数学検定に22名、歴史検定に20名が受検した。今後も部活動の調整や意欲を高める工夫をし、より多くの生徒が受検できるようにしたい。 ○ 数学科と英語科でTTや少人数指導を実践した。個に応じた指導はできたが、習熟度に応じた少人数指導など、授業形態を工夫する必要がある。 ○ 学習委員会主催のコンクールへの取組について、授業や朝自習、帰りの会等で支援できた。生徒の意欲をさらに高めたい。 ○ 定期テストへの取組が不十分な生徒もあり、学力が二極化している教科、学年、学級も見られる。家庭学習の仕方についての指導や個別指導の充実が必要がある。 ○ 初期研修以外は、授業研究の場が設定できなかった。Society5.0の到来を見通し、授業研究と合わせて、ICT機器の活用についても研修していく必要がある。	B	B	○ 漢字検定、英語検定、数学検定、歴史検定と各種検定試験に挑戦する生徒が増え、また、少人数指導で生徒の学習意欲を高め得る手立てがとられていて評価できます。 ○ 生徒会活動の校内での各種コンクールへ生徒自身が意欲的に取り組むような手立てが欲しいところです。 ○ 評価結果を見ると、生徒の個人差や家庭環境の多様化から学力の二極化、あるいは意欲のある生徒とそうではない生徒が存在するようです。なかなか難しい問題ではあると思いますが、解決に向けた努力に期待します。
		⑪ 生徒が分かりやすいように、授業を工夫している。	3.3	2.8	2.8				
		⑫ それぞれの生徒にあった指導の工夫をしている。	3.2	2.6	2.6				
		⑬ 生徒は、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。	3.2	2.7	2.4				
	学習意欲の向上を図る。	⑭ 生徒は、漢字検定、英語検定など検定試験に意欲的に参加している。	2.7	2.6	2.3				
		⑮ 生徒は、校内の漢字コンクールなどのコンクールに意欲的に取り組んでいる。	3.2	2.6	2.4				
学校運営協議会や地域社会との連携	ボランティア体験学習の積極的に推進する。	⑯ 生徒は、ボランティア活動など学校や地域の行事に積極的に参加している。				○ 感染拡大防止のため、地域のあらゆる行事が中止となり、生徒の貢献の場や地域人材の活用の機会が少なかったが、次年度は地域の期待に応えられるようにしたい。 ○ ホームページやメールでの情報発信は好評であったが、今後も工夫を重ね、保護者や地域との信頼関係を高めていきたい。	B	B	○ コロナ禍で授業時数の確保が難しい状況で、どの教育活動でどんなところを地域と連携して補完していくのか、学校としても苦労したのではないだろうか。 ○ ホームページやメールでの情報発信は効果があり、学校の様子が良くわかります。今後も更なる充実に期待したいと思います。 ○ 来年度以降は、感染拡大防止のため中止となった分まで、学校と地域との連携を深めていきたいですね。
	地域と連携した教育活動の推進	⑰ 教育活動に地域の人材を積極的に活用している。	3.2	2.7	2.2				
	家庭や地域へ情報を積極的に発信する。	⑱ 学級便り、ホームページ、メールなどを通して、積極的に情報を発信している。	3.4	3.3	3.3				